

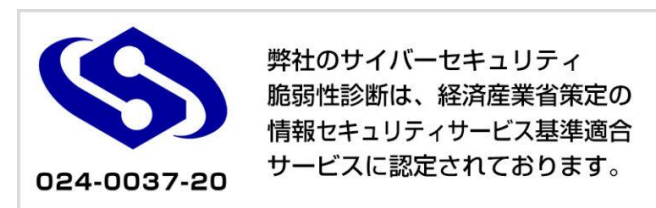
～あなたのホームページ、狙われています！～

## プラットフォーム脆弱性診断ツール イージスEWのご紹介

～ ハッカーが攻撃サイトを選定するレコナイ・ツールのご紹介 ～



2025年7月30日  
株式会社 未来研究所



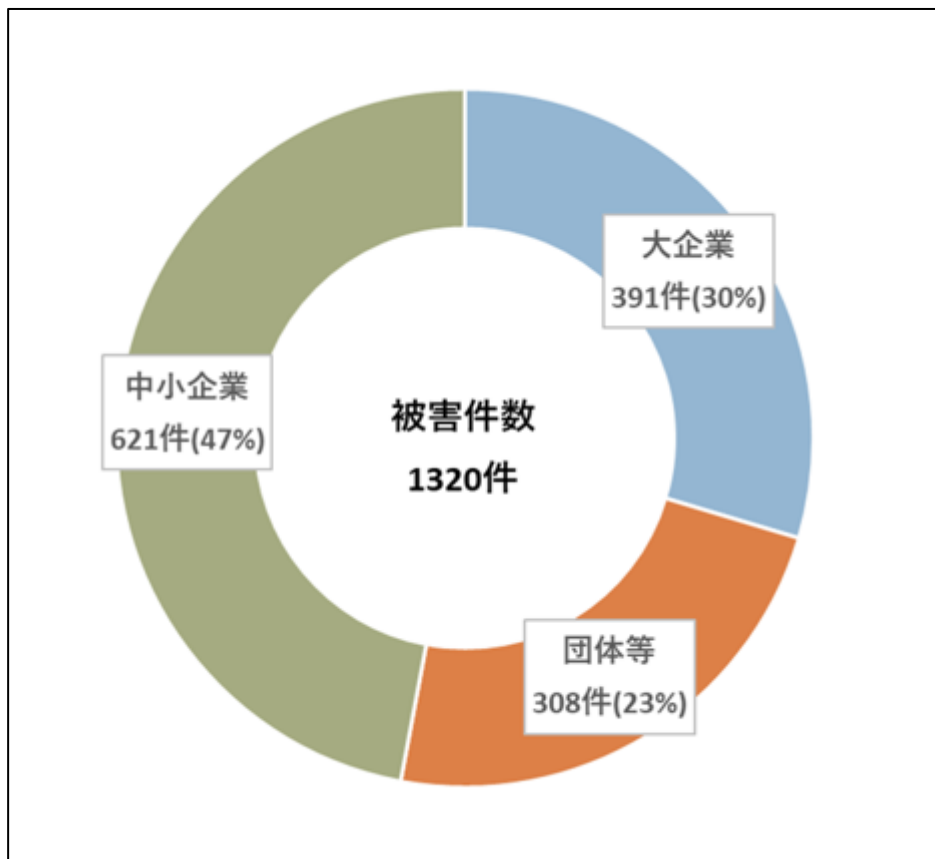
# 2025年サイバーセキュリティ事情

※サイバー攻撃の2大感染手口は、

- ・ ホームページからの侵入
- ・ メール添付ファイルのクリックからの侵入

# サイバー攻撃の危険性は、年々高まっています！

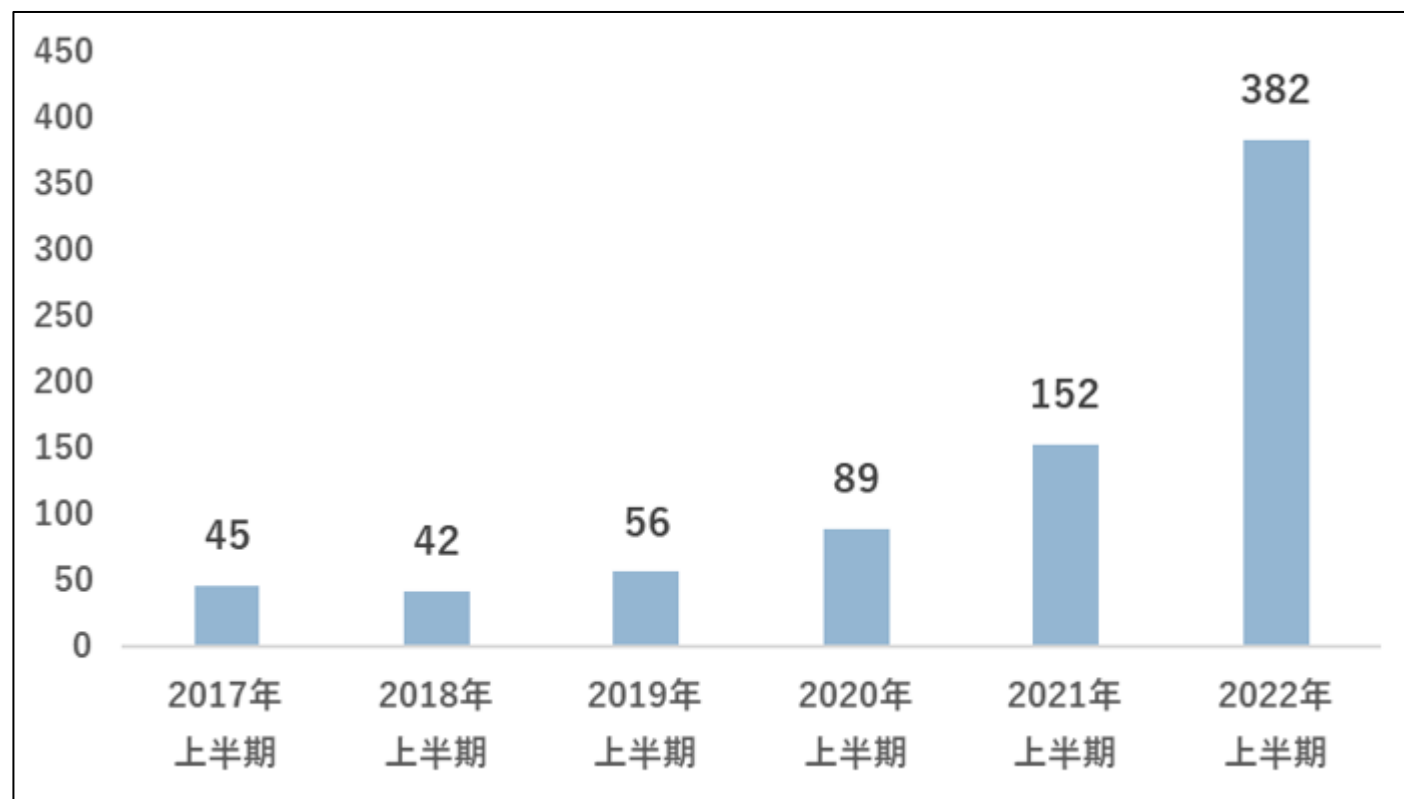
## 企業規模は関係ありません！



### ※被害件数を企業規模により分類

報道でよく目にするのは大企業の被害ですが、実は、中小企業の被害件数の方が多いです

## 年々件数が増えています！



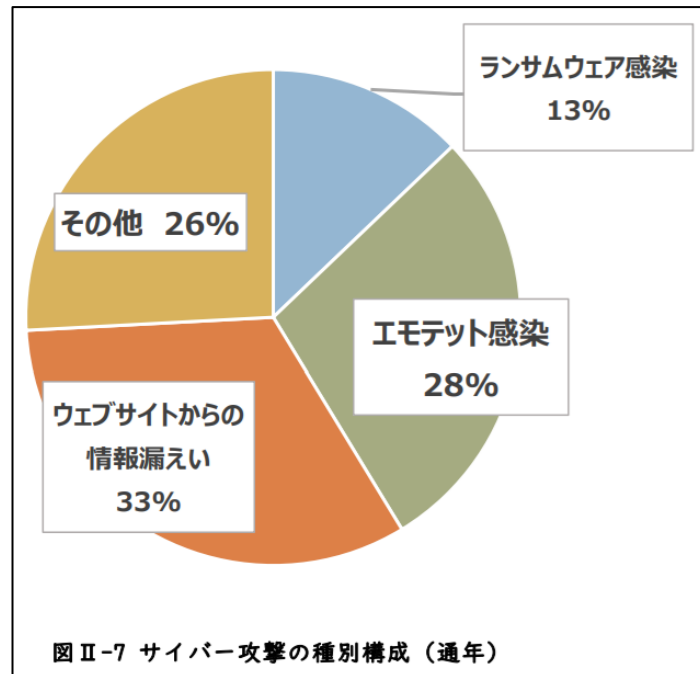
### ※公表されたサイバー攻撃件数の推移

2022年で爆発的に増えた理由としては、攻撃が増加したことも挙げられますが、2022年4月に施行された[改正個人情報保護法](#)により、公表が必要になるケースが増え、それまでは隠匿されていた攻撃が明らかにされるようになったことも挙げられます

資料：NPO法人 日本ネットワークセキュリティ協会 ([JNSA](#)) 2024年発表

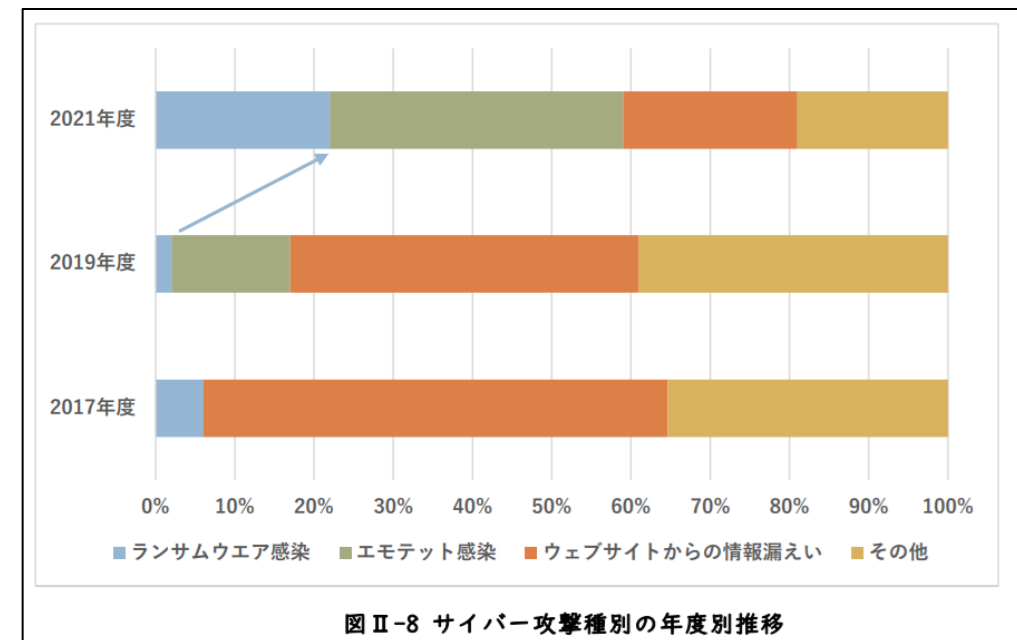
- サイバー攻撃の種別

- エモテット（ランサム）  
メール添付経由
- Webサイト経由からの  
情報漏洩（ランサム）



- 年度別のサイバー攻撃種別推移

- エモテット（ランサム）の伸長  
DMARC、SPMでの送信乗っ取りも流行り
- Webサイト経由からの  
情報漏洩（ランサム）



## ■ハッカーによるサイバー攻撃のプロセス

ハッカーは、ASM（アタック・サーフェス・マネジメント）ツールやレコナイ（偵察）ツールを用いて、攻撃可能なターゲットを特定し、リスト化します。多くの場合、IPアドレス順やドメイン登録順に従って攻撃が実施されます。

### ①偵察（レコナイスランス・レコネサンス：RECONNAISSANCE）

ツールを用いて広範なスキャンを実施し、攻撃可能な候補リストを作成  
簡単な脆弱性スキャンを行い、セキュリティの弱いターゲットを抽出

### ②標的選定（ターゲティング）

候補の中から、狙う企業・団体を選定（標的型攻撃）  
財務情報、知的財産、個人情報などの価値を考慮して決定

### ③初期侵入（エクスプロイト・ペネトレーション試行）

サーバ群の管理者権限（ADMIN情報）の取得を試みる  
CVSS（共通脆弱性評価システム）深刻度 1（赤）・2（オレンジ）の脆弱性があれば、短時間で乗っ取り可能

### ④データ窃取（情報収集）

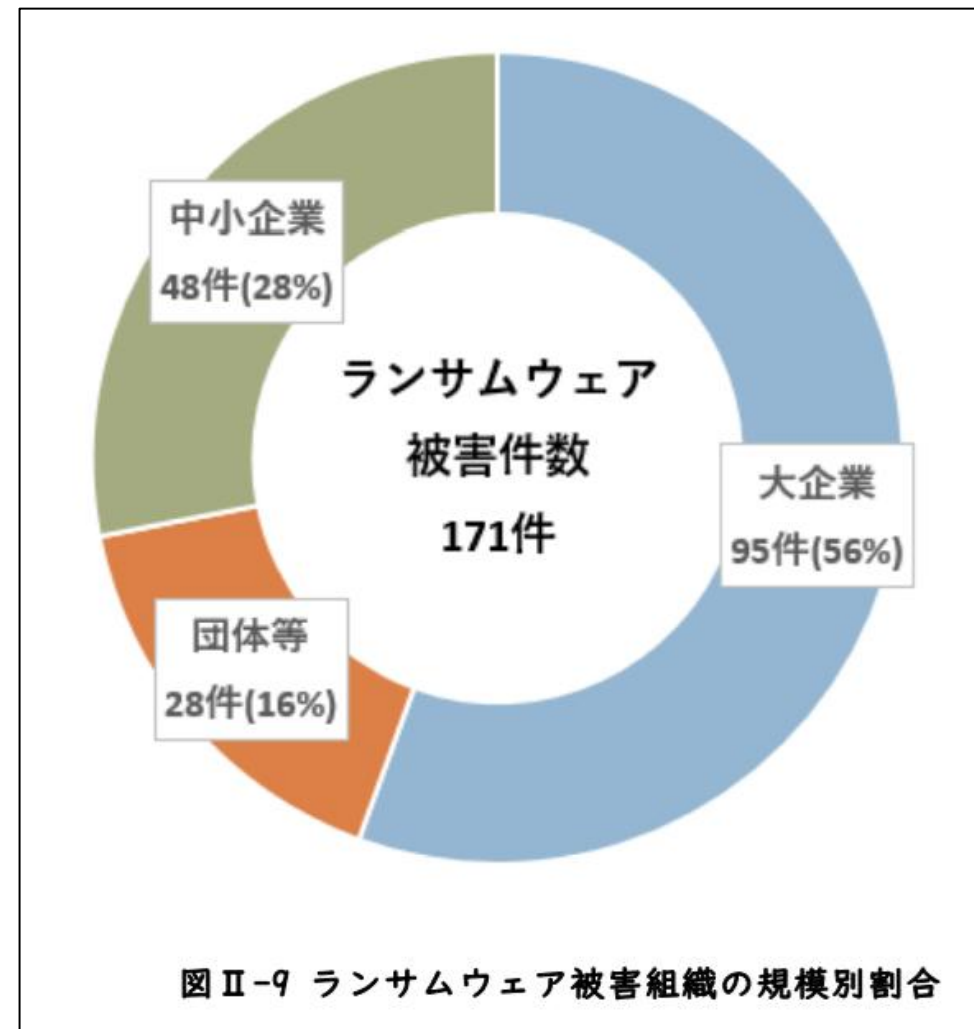
個人情報・機密データの窃取、メールの盗み見を実施  
数年にわたる情報窃取が行われるケースも多い（例：防衛庁、JAL など）

### ⑤ランサムウェア攻撃（最終段階）

盗む価値のあるデータが尽きた時点で、ランサムウェアを仕掛ける  
システムを暗号化し、復旧のための身代金を要求

## 長期的な脅威への対策の重要性

ハッキングは単なる一度きりの攻撃ではなく、長期間にわたる情報窃取が行われることが多いのが特徴です。  
企業・団体は、定期的なセキュリティ診断や脆弱性対策を実施し、常に、インターネット上および社内資産を効率よく診断および対策しながら、インシデント発生に備え訓練（防災訓練）することが重要です。



- ・ **ECサイト直接改ざん**・・・日本経済新聞2024年12月4日掲載

タリーズコーヒージャパンなども被害

40企業のサイトに不正なプログラムが組み込まれ、総計30万人分以上のクレジットカード番号などの顧客個人情報盗まれました。

**対応費用、損害賠償、信頼喪失など、経営に多大な影響を受けます！**

- ・ **サイバー攻撃被害企業が制裁金を支払わされる**

「GDPR（EU一般データ保護規則）」というEUの規則があり、サイバー攻撃で漏洩した顧客個人情報の中にEU在住者の情報が含まれていると、日本国内でだけ営業している企業であっても、企業規模に関係なく制裁金が課されます。

**サイバー攻撃への対応をしておらず重大な違反があった場合、  
最大2000万ユーロ（約32億円）以上の制裁金を課される可能性があります！**

# サイバー攻撃は、経営に深刻な影響を与えます！

## ・ランサムウェア

ハッカーがセキュリティの弱点を突いて社内システムに侵入し、金銭的価値のある情報を盗み取り、情報を吸い尽くした後、最後にシステム内のファイルを使用できなくし、身代金を要求する。

**ランサムウェアで会社のファイルを使えなくされ、身代金を要求されたときは、  
すべての情報が漏洩しており、もう手遅れです！  
システムを修復するまで事業中断せざるを得ないなど  
重大な影響があります！**

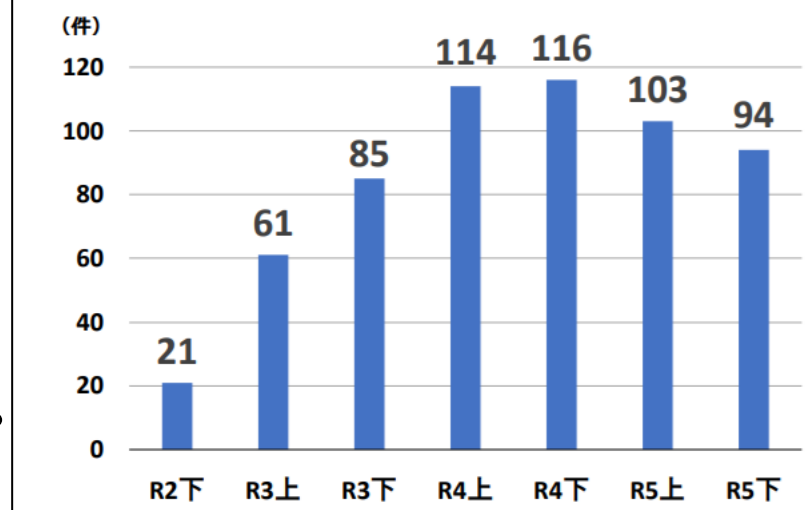
※令和5年におけるサイバー空間をめぐる  
脅威の情勢等について by 警察庁

## ・サプライチェーンへの連鎖

大手企業への乗っ取りをおこなうため、サプライチェーン会員で脆弱性が多い関係企業の乗っ取りから、攻撃が開始される。該当会員端末はサイバー攻撃の踏み台に使用され、大企業、並びに他のサプライチェーン会員にもサイバー攻撃が実施される。グループ全体に多大な損害を及ぼしてしまう。

**多額の損害賠償に加え、取引復活まで約半年かかり、その間の  
オーダが中断します。事業継続の危機です！**

【図表19：企業・団体等におけるランサムウェア被害の報告件数の推移】





- サイバー攻撃によるIoT機器の  
マルウェア（IoTボット）感染数

マルウェアに感染したIoT機器群が、  
年末年始の金融系DDoS攻撃の犯人？

[2024/NICTER観測レポート](#)より

- 図5：2024年ハッカーに乗っ取られたIoT  
機器の数は？

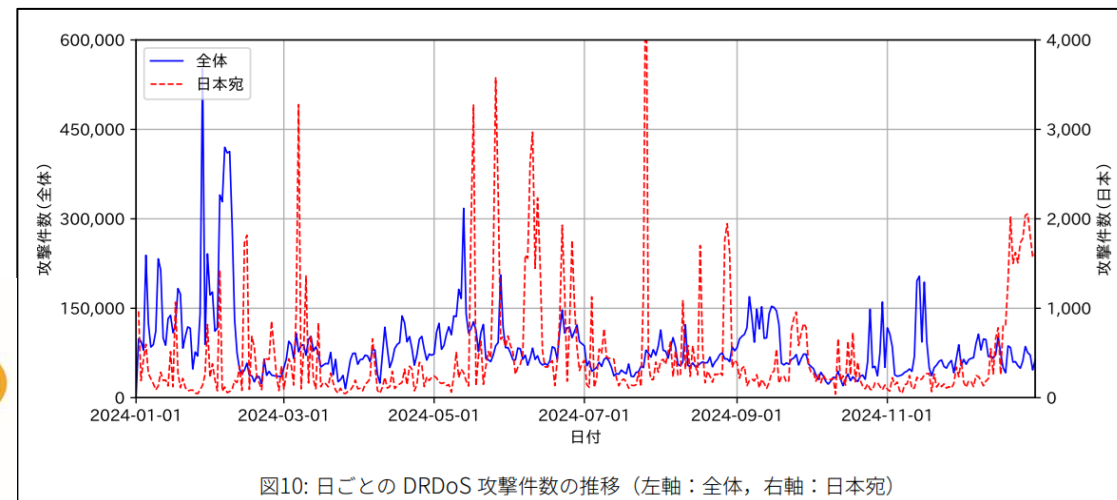
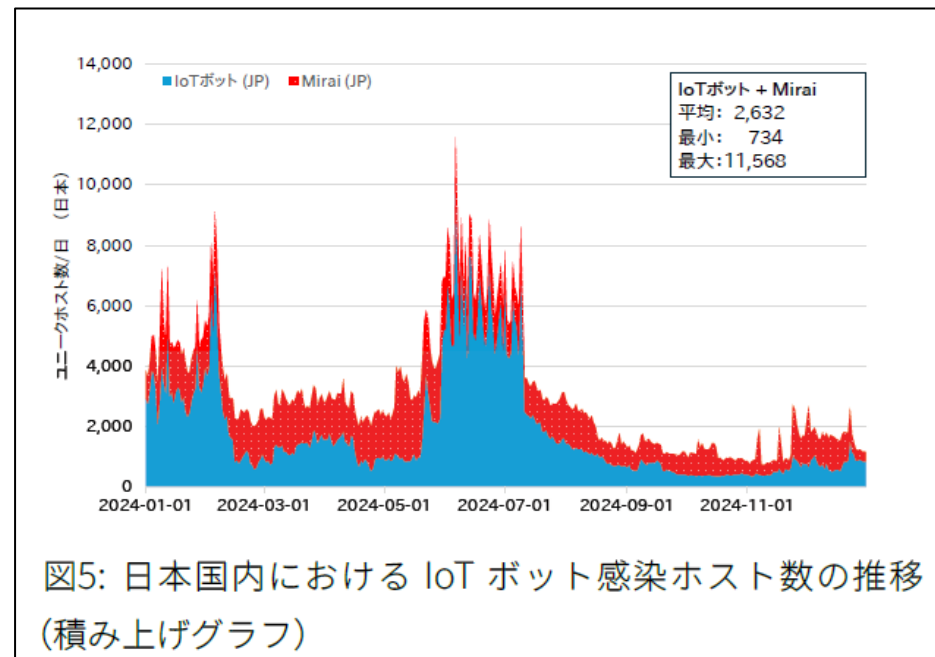
**2,632台/日 96万台/年**  
累積で優に**200万台を超える**

- 図10：2024年IoT機器を使ったDRDoS  
攻撃が何件発生？

**467件/日 （2023年：2.4万件/日）**

【日本政府】

流石にこの感染数は問題！  
抜本的な施策が求められた





- 年末年始の日本の風物詩となりつつあるDDoS攻撃

年末年始の銀行・交通システムのダウン

- 12月末の支払いが全てSTOPし、謝罪電話で忙しい（弊社代表だけ？）

- DDoS攻撃に対する技術的に完全な回避策はありません（現時点）

緩和策はある

- CDNを用いた高可用性のネットワーク構成で緩和される
- 中小規模の企業・団体では、予算に制約がある中でもWAFの導入で少し緩和される

- 抜本的対策は、DDoSに利用される感染IoT機器を根絶すること

総務省：NOTICE、経済産業省・IPA：JC-STAR

重要社会基盤事業者（重要インフラ15分野）に求められること

- ゼロディ攻撃に備えるため、プラットフォーム脆弱性診断を定期的実施する
- 診断対象：ネットワークに繋がる全機器（社内・社外を問わず、サーバ・ルータ・スイッチ・PC・ディスプレイ・IPカメラ・無線AP・複合コピー機・NAS等）

クラウドサービスも

「自分の会社は大丈夫」「狙われるはずはない」と考えている方は多いです。  
しかし、ハッカーの考えは違います。

ハッカーは「空き巣」と同じで、油断している狙いやすいホームページやシステムを狙います。

サイバー攻撃を受けてしまうと、**対応費用・顧客への賠償・事業停止による利益喪失・データ回復のための身代金支払・ブランドイメージなどの損害を被ります。**  
**中小企業であっても数千万円単位の損害が発生すると想定されています。**

(NPO法人 日本ネットワークセキュリティ協会調べ)

空き巣と同様に、ハッカーは侵入しにくいホームページへの攻撃はあきらめることが多いです。

**事前に対策をして、防御を固めておくこと（ハードニング）が必要です。**

# 脆弱性（ぜいじゃくせい）診断とは

※脆弱性診断はシステムに対する健康診断のようなものです

**病気を発見するために健康診断をするように、  
システムの脆弱性を見つけるため  
脆弱性診断は定期的の実施することが重要です！**

ハッカーは、狙いやすい弱点があるホームページや企業のシステムを攻撃します！

不用心だな！  
隙だらけだぞ！

~@xx.jp ~@xx.com  
ダークウェブに流出した  
メールアドレスやパスワード

情報の悪用

ハッカーは、特定の大企業だけを狙うのではなく、事前にASM・レコナイ（偵察）ツールで無差別な偵察を行い、セキュリティ対策が不十分な企業を見つけ出します。

ペネトレーション（侵入）テストはサーバに侵入するときに見つかる可能性が高いため、ハッカーはASM・レコナイツールをはじめに使用します！

開かれたポート

侵入と漏洩

放置された古いサーバ

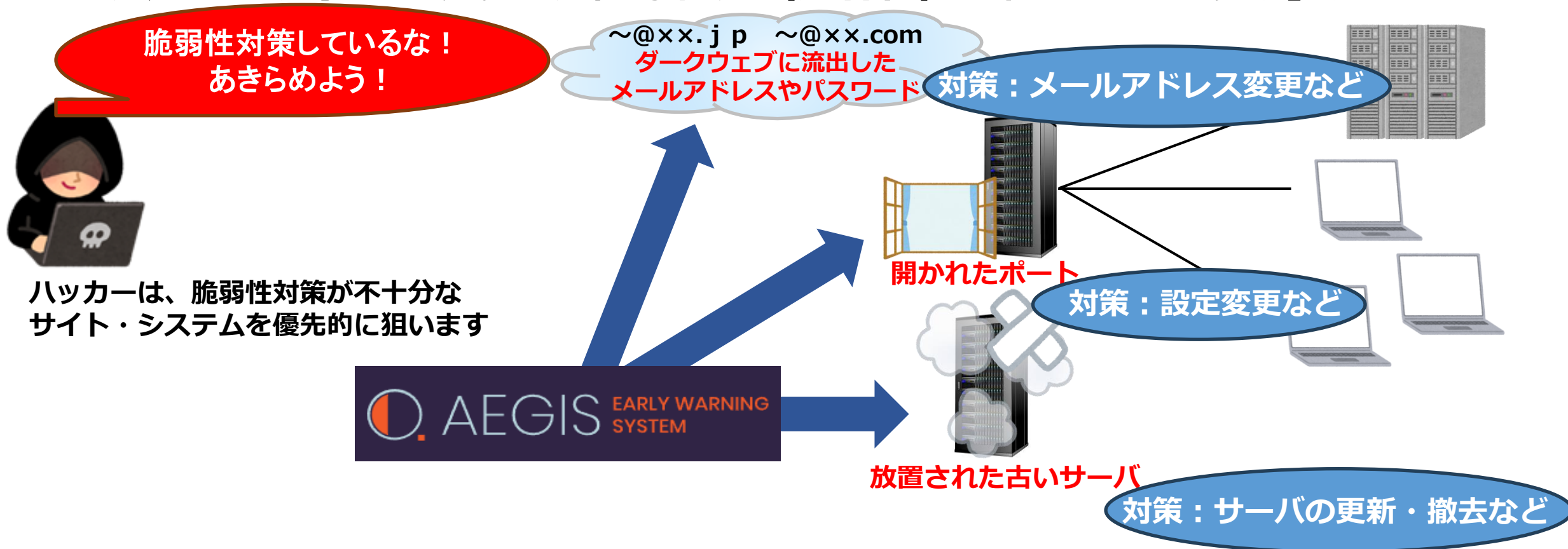
侵入や踏み台

ハッカーが狙う弱点を「脆弱性（ぜいじゃくせい）」といいます。

「脆弱性」は目に見えないため、普通にPCを使っているだけでは気づけません！  
ほとんどの脆弱性は、自動で直らないため、自力で対策することが必要です！

# 脆弱性診断ツールは危険な個所を検出・診断します！

イージスEWは、インターネット上のホームページや社内システムを守るため、「ハッカーに攻撃されやすい危険な個所（脆弱性）を検出・診断する」ツールです



イージスEWがお客様の目に見えない危険な個所を見つけ、**見つけた危険な個所は、専門のスタッフが対応策を説明、または、「伴走サービス」で修正します**

- 人の場合：健康診断  
システムの場合：脆弱性診断

人間の場合は、いきなり細胞診をしたり治療を始めたりしません。まず、健康診断を受け、病気を見つけます。

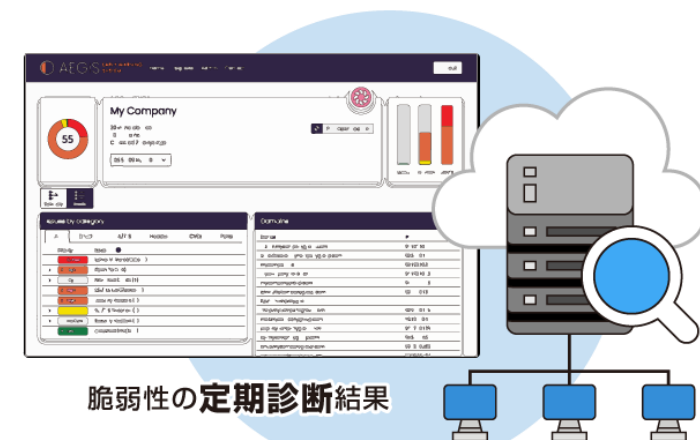
システムも同じで、インターネット上の資産、およびイントラネットの端末に対して診断を行い、検出された脆弱性（ぜいじゃくせい）の深刻度に応じて対策します。

最新の機器であっても、日々脆弱性は発見され増えていきます。

1回の診断では不十分です。システムも定期診断が必要です！



人の健康診断



システムの健康診断  
||

サイバーセキュリティの脆弱性診断

**システムの健康診断 = 脆弱性診断**



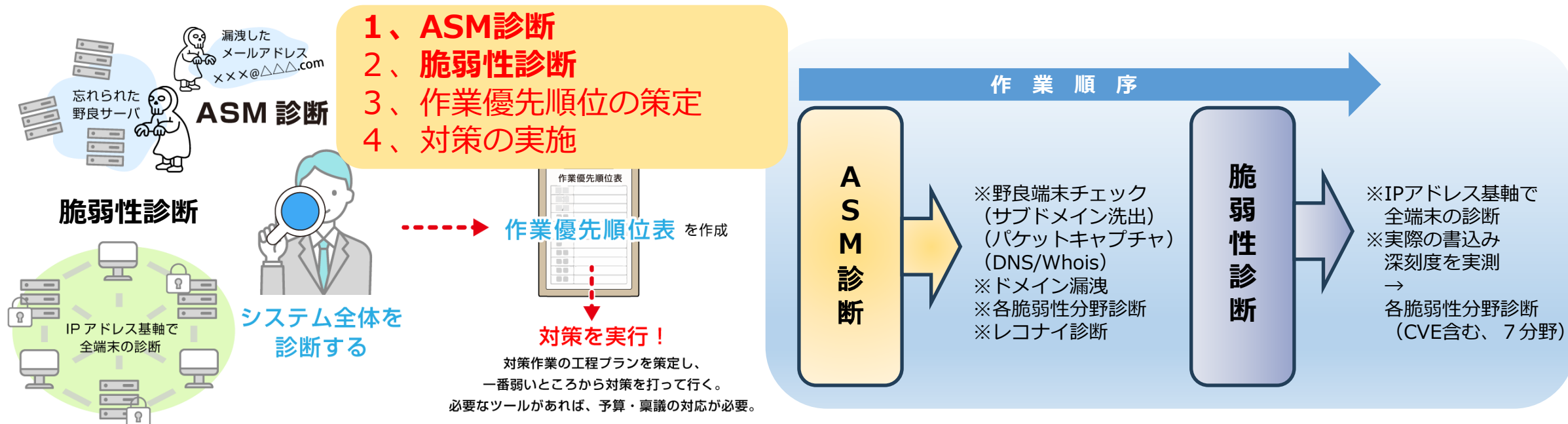
## 1. まずASM診断を行い、危険な個所（脆弱性）を見つけ出します

…ASM診断は、申し込むだけでホームページに負担をかけずにできる、お手軽な診断です。

イージスEWのASM診断には、他社製品と違い、ハッカーが攻撃対象を探す方法と同種の「レコナイツール（偵察ツール）」という診断機能が含まれています

イージスEWで診断すれば、ハッカーに狙われやすい個所を先に検出できます！

2、脆弱性診断で、検出した脆弱性をより詳しく調べ、効果的な直し方を見つけます。





# プラットフォーム脆弱性診断ツール『イージスEW』

※ハッカーが攻撃サイトを選定するツールが、  
**ASM (Attack Surface Management)**と**レコナイツール**！  
これらの機能がないプラットフォーム脆弱性診断ツールは、  
意味がありません。

※脆弱性診断（アクティブスキャン）は、どこのメーカーも**ほぼ同じ**  
（基は、OpenVAS@フリーウェア）⇒ 高額な支払不要！

リーズナブルなイージスEWをご検討ください！

# イージスEWで、ホームページの危険性を検出！

## 脆弱性診断ツール イージスEW (AEGIS-EW)

AEGIS EARLY WARNING SYSTEM

見やすい  
GUI

深程度の割合が  
円グラフによって  
一目で認識できる



分析しやすい  
分類分野

グラフは  
色で判断可能で、  
専門知識は不要です

※専門知識不要！※

赤色

オレンジ色

は危険！

危険な脆弱性を放置すると、ハッカーに乗っ取られ、多大な金銭的被害を受け、社会的信用に傷がつきます！

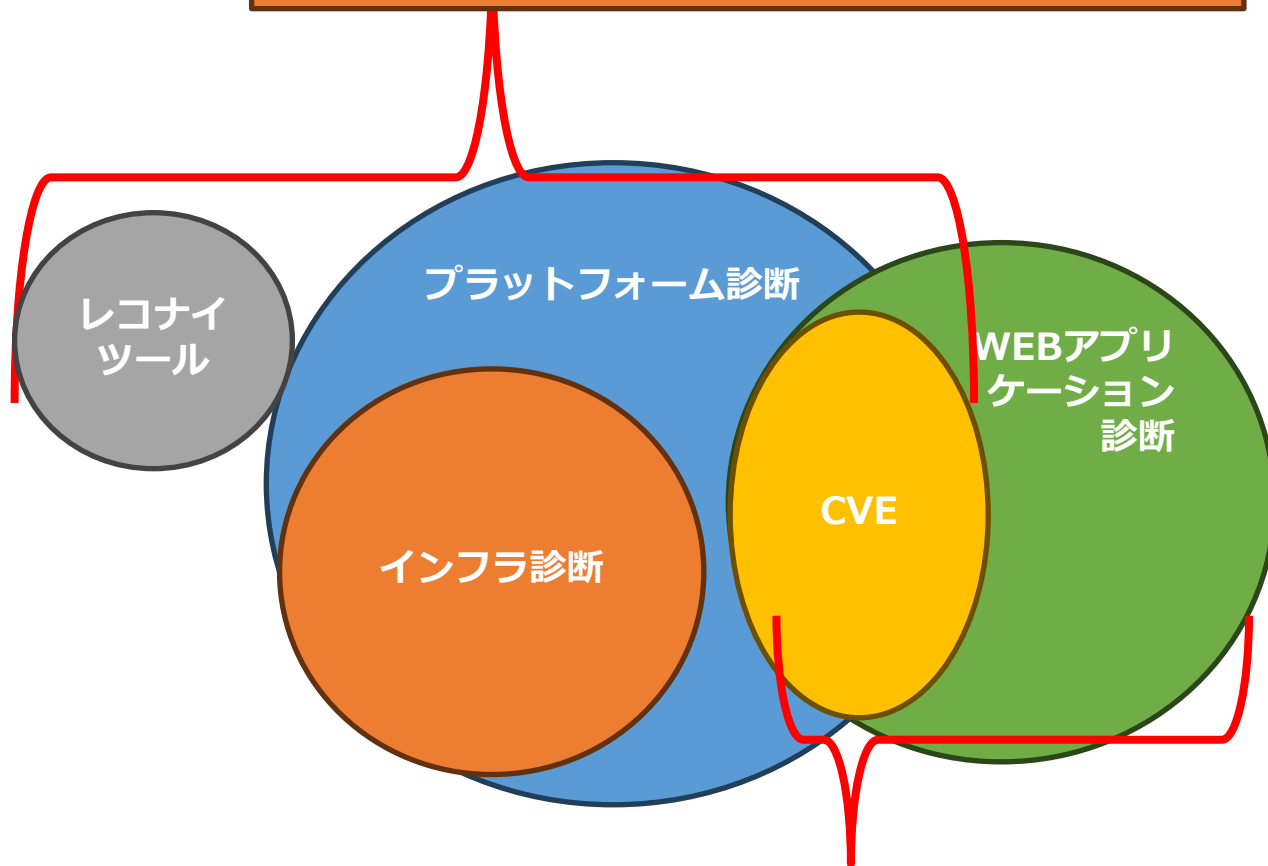
赤色やオレンジ色の危険な個所（脆弱性）が検出されたホームページは  
1年目～3年目の初心者SEでも簡単に乗っ取ることができます！

赤色やオレンジ色の脆弱性があるホームページはハッカーの格好のターゲットです！

イージスEWは「ASM診断+レコナイ」「脆弱性診断」が可能です  
イージスEWで診断し、赤色やオレンジ色の危険な個所を修正しましょう！！

## ■ 未来研究所が提供する脆弱性診断ツール

### 【イージスEW】プラットフォーム診断



### 【OWASP ZAP】Webアプリ診断

#### 【イージスEW】プラットフォーム診断

- ①プラットフォーム
  - ・メールなりすまし対策
  - ・ダークウェブ流出・情報漏洩
  - ・サーバ証明書の診断

- ②インフラ 純粋なL4（トランスポート層）
  - ・ポート

- ③CVE 共通脆弱性識別子

- ④レコナイ（偵察ツール）
  - ・野良端末検出
  - ・ドメイン情報の漏洩履歴

#### 【OWASP ZAP】Webアプリ診断

##### Webアプリケーション

（OSの脆弱性はチェックしません。  
OS部分はプラットフォーム診断がチェックします）

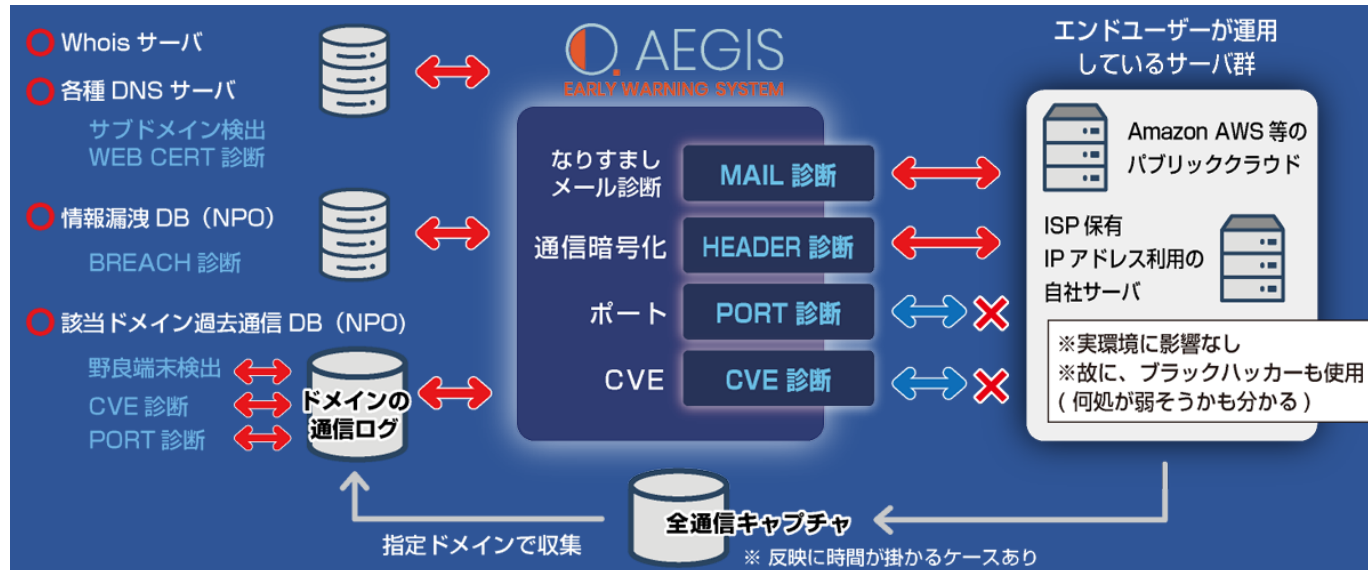
- ・MS系 IIS上のアプリケーション
- ・OSS系 Apache, Nginx, Tomcatなどで動作するWebアプリケーション
- ・クラウド環境系 各種・クラウド上のアプリケーション など

## ■ 8つの分野別診断項目

脆弱性が8つの分野別に表示されるため、各分野ごとに分析・対策が可能です

CVE 共通脆弱性識別子	CLOUD Cloudプラットフォーム診断	MAIL 送信ドメイン認証	BREACH データ侵害 (情報漏洩)	WEBCERT Web 認証関連	HEADER HTTP ヘッダー 関連	PORT ポートスキャン 攻撃	SUBDOMAIN 野良端末検出
個別製品中の脆弱性を対象として、米国政府の支援を受けた非営利団体のMITRE社が採番している識別子です。脆弱性検査ツールや脆弱性対策情報提供サービスの多くがCVEを利用しています。	Amazon AWS・Microsoft Azureにおけるセキュリティポリシーを診断します。VPC (Virtual Private Cloud) のデフォルトセキュリティグループが不要な通信を制限しているかを確認します。また、重要なセキュリティイベントに対するアラーム設定やルートアカウントに対するハードウェアMFA (Multi-Factor Authentication) の有効化について確認することも可能です。	「受信したメールが正規の送信元から送られてきたかどうか」を確認できる仕組み。メール送信が行われるサーバ(SMTP)に対して、「IPアドレス認証」や「電子署名」を用いて、「メールのなりすまし」が行われているかどうかを判断します。(SPF,DKIM,DMARCチェックもサポート)	攻撃者が、Webサービス等に攻撃を仕掛けて得た個人情報やデータをダークウェブ等に拡散する行為のこと。特にメール情報の漏洩から発生が多く、メールアドレスを基軸にした診断を実施します。	WEBサーバ証明書に関する認証プロトコル全般の脆弱性チェックを診断します。例えば、TLS、SSLのバージョン情報、等。	WEBアプリケーションとのHTTPプロトコルをセキュアにするための各種ヘッダーのサポート状況を診断します。これにより、サポートOSの正しいチェックモジュールが搭載されているか、攻撃防御を実施するための設定が成されているか、等をチェックします。	ポートスキャンからの外部侵入に対する脆弱性の診断を行います。必要最低限のポートのみを使用し、不要なポートは常に閉めておく対策が求められます。	サブドメインの管理は、セキュリティにおいて非常に重要な要素です。管理されていない野良端末（特に開発環境やテスト環境）が存在する場合、攻撃者にその隙間を突かれるリスクが高まります。野良端末検出機能は、これらの放置されたサーバを自動的に探し出して、リスト化します。
			レコナイ ツール				レコナイ ツール

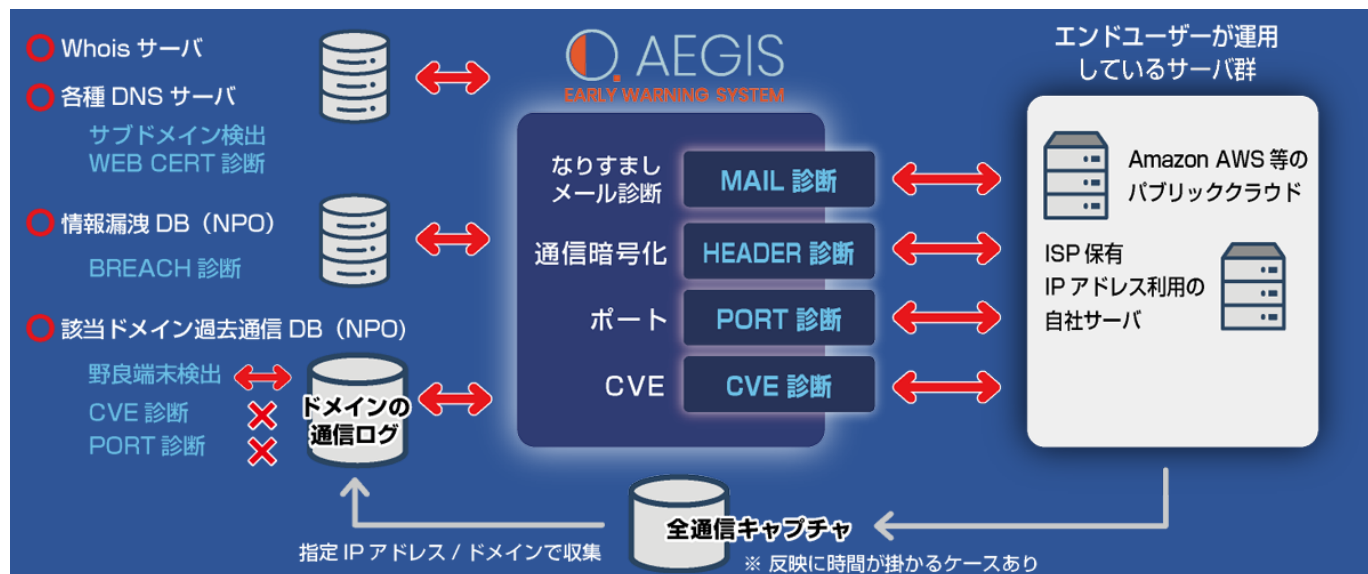
# 強力なASMと脆弱性診断



【ASM（パッシブスキャン）】  
ハッカーが攻撃対象サイトの偵察に使用します

- ・ 野良端末の存在が分かります  
(多くは**完全放置**。モジュールが古く乗っ取り可能)
- ・ 機器のファームバージョンが分かります  
(バナー表示がONの場合)  
→ **VPNルータの簡単乗っ取り**
- ・ 外部サービス経由で漏洩したドメイン由来の個人情報も分かります  
→ **例：社員のメールアドレスがPW付きで漏洩している**

※CVE・Portについては、確度が低くなります



【脆弱性診断（アクティブスキャン）】  
IPアドレスを基軸に、深い部分まで侵入を試み、パケットを書き込んだ結果をもとに診断します

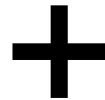
イージスEWは、OpenVAS (Github/Freeware) の診断項目を網羅したGreenBorn社のAPIを使用し、14万にも渡る項目の診断を実施します



イージスEWの無料ASM脆弱性診断結果の説明会を無料で実施いたします。  
(個別の脆弱性の詳細を判明、分析するためには、有料診断が必要です)

検出された脆弱性診断結果の簡易的な対処方法をお伝えします

※詳細：CVSS、CVE 等、過去の漏洩情報も記載



ぜひこの機会に  
ご検討ください。  
お待ちしております。

[illegible]

お申し込みは、  
[sales@future-research.jp](mailto:sales@future-research.jp)  
までお気軽にどうぞ！

	価格（税抜）	主な機能
ASM診断	総ドメイン数：1～9 1回：127,500円 年間月1回：352,500円 年間週1回：435,000円	サブドメイン探索 CVE（共通脆弱性識別子）検出 オープンポート調査 Webサーバ証明書調査 HTTPヘッダー調査 メールなりすまし対策状況調査 データ侵害・情報漏洩調査
脆弱性診断	総ドメイン数：1～9 1回：225,000円 年間月1回：832,500円 年間週1回：997,500円	Cloud（Amazon AWS・Microsoft Azure）調査 各端末の詳細な診断
診断結果説明2	198,000円	診断結果の報告書作成・説明会実施

※ASM診断には、レコナイツール（偵察ツール）診断機能が含まれています。

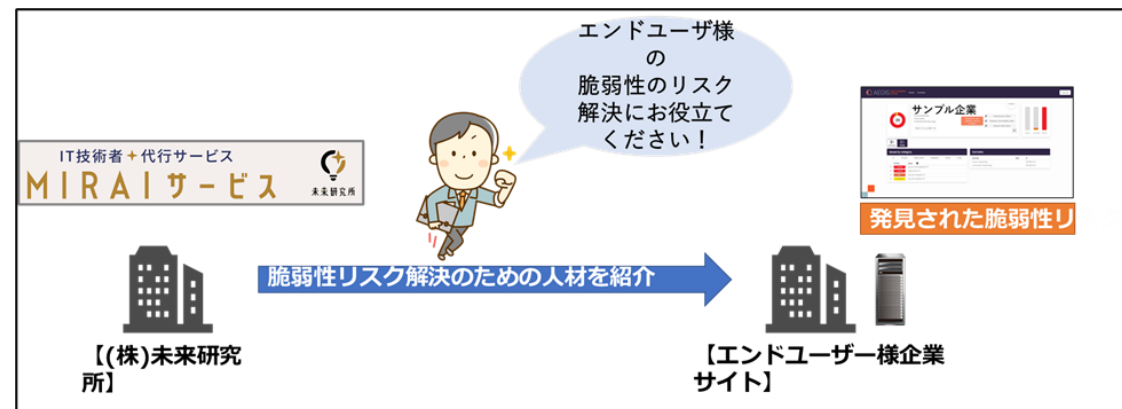
「総ドメイン数」とは、お客様のホームページドメイン「[www.〇〇〇.jp](http://www.〇〇〇.jp)」から派生した、全ての関連ドメインの数です。



## ■「報告書+説明会」

### 「定期月報作成・報告」

有料診断結果に基づく報告書・月報の作成と、  
各脆弱性分野の診断結果に基づいた  
脆弱性対策説明会・報告会を実施いたします。  
**有料診断初回時はバンドルでお申込みいただきます。**



## ■脆弱性の改修サービス「伴走サービス」

CVSS緊急・重要脆弱性のエンジニアによる改修支援を、週1日就業（35h/月）～から提供します。  
遠隔地の場合、Edge-BOX（VPN BOX）をお送りし、お客様と一緒に改修します。  
脆弱性リスクを解決する人材をお探しの際は、是非ご相談ください。

## ■MIRAIサービス

脆弱性診断の改修サービス「伴走サービス」以外のITのお困りごとでも、  
IT技術者が不足して「一人IS」「IS不在」を余儀なくされている  
SME・中堅企業様へ、IS代行サービスを行います。  
専門知識と技術を持った弊社スタッフがサポートします。

- 「エンドユーザの状況・要望に合わせた、  
サイバーセキュリティの長期的な伴走サービス（ハードニング）」

- 例：

- **CSIRT、PSIRT、JC-STAR、SBOM等への対応を実施したいが、ISMSの認証を取得していない**
  - 新たな1年プロジェクトで、ISMS取得(必要時ISO27017も)を新規スタートさせて、並行してサイバー業務も遂行
- **上司がサイバーの知見がなく「サイバー予算の承認が出ない」**
  - 社内で、「サイバー事業でのDX新規事業（3年後の外販開始）」を立ち上げ、外販の前に社内での知見を積み上げることで、承認。（近い将来、お金を生むなら承認する by 役員）
  - 役員会議でのCIO/CISOの新設を打診、現状上司の範疇外で承認させ遂行
- **部下が「担当者がいない」を言い訳に、サイバー業務がすすまない**
  - 社内で組織を横断した新プロジェクトメンバーを募集し、役員直下のハンドリングで実施
- **大学には2千を超すIPサブドメイン数が存在し、多数の深刻度が高い脆弱性が存在する**
  - 新たに、「大学メインドメイン使用におけるセキュリティポリシー」を、策定（原案あり）し、1年間をかけてインターネット上で検索されるドメイン数を、数百以下に抑えハードニング化を実現

- よくある「サイバー対策の誤認・間違い例」

- 「ISMSは取得していないが、CSIRT・PSIRTを設置・運用したい。」
  - 結局、ISMSの取得も必要になる。
- 「メーカ営業マンから勧められたUTMだけで満足。他のセキュリティ対策は行わない。」
  - UTM+ルータは社内イントラ側の防御のために設置しているが、お客様は、UTM+ルータでインターネット上のHP等の資産も守られると主張…（お客様の学習不足）
- 「脆弱性診断・ペネトレーションテストを実施しているので、対策は完全。」
  - ASM・レコナイの存在を知らない（野良端末からの乗っ取り発生）
    - 最初から侵入してくる（ペネトレーションを掛ける）バカなハッカーはいない（ことを知らない…）
  - 病院・県市町村の担当者に多い
    - 大手SIが、ASM・レコナイの必要性を担当者に説いていない
      - » 大手SIが担当している現行システムの深刻度がひどく、無料改修/安価での改修を強要されるので、ASM/レコナイを極力行わない
- 「何かあったら、ホームページサービスプロバイダーが責任を取ってくれる。」
  - ポートの脆弱性を治せないプロバイダーを使用しながら、該当ポートからの乗っ取りが発生した際にプロバイダーが責任を取ってくれる、と勘違いをしている（要、読破・使用権許諾書）  
＜解決策＞ 他社セキュアHPプロバイダーへの引越しを推奨・運用支援を実施
  - AWS, Azure等の仮想環境OS担当者にも同様の勘違いをしている人が存在

Thanks